

「琵琶湖の深呼吸」

滋賀銀行 専務取締役 今井 悦夫



滋賀県は、琵琶湖の北湖で上層と下層の水が鉛直方向に混ざり合い、湖面から湖底まで水温と酸素濃度が同程度になる「全層循環」を1月26日に確認した、と発表しました。

冬季の湖面冷却で表層の水が低温・高密度となり深層へと沈降を始め、その代わりに深層水が上昇する対流が発生して、酸素を多く含んだ水が湖底へ運ばれます。湖底の「貧酸素」状態を回避し、エビや貝類などの生態系維持に欠かせないメカニズムで、大きく息を吸って体内に新鮮な酸素が行き渡るイメージから「琵琶湖の深呼吸」とも呼ばれています。

この循環は例年1月から2月にみられる現象で、昨年は3月中旬まで確認できず、地球温暖化の影響が懸念されていました。今年は“例年通りの時期”でしたが、これで一安心、とはいかないようです。昨年の暖冬で湖底の水温が高かったことに加え、今冬の豪雪や低気温で湖面との温度差が広がったことから循環が起こりやすい状態にあっ

たと考えられています。これも地球温暖化による気候変動が大きくなった事が原因と言われています。

また、近年、オオバナミズキンバイの異常繁茂やアユの稚魚「ヒウオ」の記録的な不漁など、これまでとは異なる琵琶湖の変化が多く報告されるとともに、私たちの日常生活や経済活動に少なからず影響を及ぼしつつあることも気がかりの一つです。

人々に多くの恵みを与えてくれている琵琶湖。私たちには、先人から預かったこの宝物を、未来にしっかりとした姿で引き継ぐ責任があります。そのためには、琵琶湖の鼓動に耳を澄ませ、呼吸を感じ、目を凝らして細かな変化も見逃すわけにはいきません。

事態が深刻化してからでは遅い、との強い危機感を持って、琵琶湖の環境保全に私たち一人ひとりが今なすべきことを考え、実行すべきではないかと考えます。

しがぎん TOPICS

滋賀県との「地域密着連携協定」による取り組み 第7回「アジア展開セミナー」開催 ～できる一歩から始めるムスリム向け「おもてなし」～

当行は、2月8日に滋賀県大津市のコラボしが21にて、公益財団法人滋賀県産業支援プラザ、滋賀県と共催で、「アジア展開セミナー」を開催しました。

本セミナーは、アジア各国への事業展開を検討されている地元企業の皆さまに有意義な情報を発信しようと、2014年に始めたものです。7回目の今回は、訪日外国人が急増する中、ムスリム（イスラム教徒）の方々向けの「おもてなし」を展開しようとする事業者さまを対象に、「ハラル※ビジネス」をテーマとしました。

第1部では、ハラルメディアジャパン株式会社 代表取締役 守護彰浩氏が「ハラルビジネスへの第一歩」と題して、訪日ムスリム観光客の現状を説明。ハラル対応の可能性や、その手段の一つであるハラル認証について講演しました。続いて第2部では、滋賀県内のムスリム留学生を招いたパネルディスカッションを行い、ムスリムたちがどのようなサービスを求めているのか、質問を交えながら意見を交換しました。

当行は、15年5月に一般社団法人ハラル・ジャパン協会と業務提携し、イスラム市場でのビジネス展開やハラル認証取得に関する情報提供等を行っています。第6次中期経営計画にある「地方創生への挑戦」を実践すべく、今後も地元企業の皆さまの海外ビジネス展開をサポートしてまいります。



パネリストの体験談に熱心に耳を傾ける参加者たち